

ふりがな 氏名	ささかわ きりこ 笹川 貴吏子	都道府県	茨城県	
所属/肩書	立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科			
私のESD活動	日本の農山村における文化と教育の面からの持続可能な地域づくりの実践			
ESD活動を表すキーワード	日本の農山村での地域おこし	地球市民	文化の多様性	

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

大学卒業後、総務省の事業である地域おこし協力隊として茨城県常陸太田市里美地区という農山村に移り住み、その地域の地域活性化事業に携わってきました。一緒に協力隊として活動を行っていたメンバーが、「清泉女子大学地球市民学科」の卒業生という全国的にも珍しい特徴を持っていたことから、「農村と都市、人と人、地域と地域、それらのつながりを大切にしたい」という活動コンセプトをもとに、フランス語で「つなぐ・むすぶ」という意味を持つ「Relier(ルリエ)」というチーム名をつけ、「地球市民学」をキーワードに活動を行ってきました。

チームの中で私は、「地域資源の利活用」担当として「文化と教育」を軸に、地域の子どもたちへの地域資源を活かした授業や、県内の大学を対象にしたフィールドワークのコーディネーターとして活動を行ってきました。これまでの活動を通して少しずつではありますが、当初はあきらめムードであった地域の人や自分たちの地域に無関心であった子どもたちの中に当事者意識の芽生えや、地域への誇りの回復が見られるようになりました。

私自身も、約5年間の地域での暮らしや活動を通して、一見課題だらけに見えていた日本の中山間地域には、持続可能な社会やこれからの未来を築いていくうえでのたくさんの可能性や学びの要素が潜んでいること実感するとともに、日本の地方という場所は「残したい未来への価値観」に溢れる最先端の場なのだと考えるようになりました。協力隊の任期が終了した現在も、地域に住み続けながら Relier というチーム名で、日本の地方から持続可能な社会を実現するべく、様々な地域活動やチャレンジを仲間や地域の方と一緒に続けています。

・総務省広報誌掲載記事 http://www.soumu.go.jp/main_content/000194298.pdf

・ゆたりに掲載記事 http://www.yutari.jp/chihou/chihou_satomi/

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？

私は現在、地域で活動を続ける一方で、これまでの経験の整理と学術的に見識を深めていきたいという思いから、週の半分を都内の大学院に通い、ESDについて研究しています。協力隊の任期中に、現在の地域活性化が経済の活性化に重きを置いたもののみで語られていることに違和感を覚え、そのような狭義の意味での地域活性化から持続可能な地域づくりのための、広義の意味での地域活性化への捉え直しが必要だと感じました。今後は、大学院での学びを地域に還元すべく、現在も一緒に活動を行っている仲間が立ち上げた団体の特別研究員として、自身のフィールドである里美地区にて、「地球市民を育むムラ」というコンセプトをもとにした教育事業や地域活性化に携わる人材育成のための地域を学びのフィールドとした活動を行っていく予定です。現場での実践を行いながらも、そこで起きている現実の中から理論を構築していけるような研究を続けていきたいと考えています。